

## 58. 東広島における茅葺き民家の保存・消滅実態とその要因に関する研究

0710920024 板東孝  
指導教員 市川尚紀 講師

茅葺き民家 茅葺き屋根 伝統民家

### 1. 背景と目的

茅は、縄文時代から竪穴式住居の屋根材料として最初に使用され、屋根の原点であり伝統民家である。しかし近年、茅葺き民家は急激に消滅の途をたどり、現在県内には、人が暮らす茅葺き民家はわずかである。北欧では、茅葺き屋根がブームとなっており、その理由として茅葺きは形がよく、茅は環境的に素晴らしい素材であるなどのことから人気があり、注目されている。

本研究では、東広島市内の茅葺き民家の保存・消滅実態を把握し、屋根葺き職人の減少、葺き替えのコストなど茅葺き民家の減少理由を把握する。



写真 1 茅葺き民家

### 2. 研究の手順

(1) 調査対象と調査方法：2002年9月1日の時点で確認<sup>注1)</sup>されている82戸の茅葺き民家を対象に、フィールド調査、文献調査を行う。その後、2010年7月5日現在現存している民家で空き家となっている民家を除いた民家を対象とした、ヒヤリング調査を行う。

(2) フィールド調査：フィールド調査の内容として「現状」の確認、「民家の写真」を撮影し「屋根材料」「屋根の状態」「棟様式」「屋根形式」「使用用途」「敷地内建物の有無」「その他備考」を記録する。そして、現存民家を地図にプロットし、分布図を作成する。

(3) ヒヤリング調査：ヒヤリング内容として、「良いところ、悪いところ」「葺き替え費用」「屋根葺き職人」「屋根の被覆を考えているか」「なぜ被覆したのか」などについてヒヤリングを行う。

(4) 減少要因の考察：フィールド調査結果とヒヤリング調査結果をふまえて茅葺き民家の保存・消滅実態とその要因を考察する。

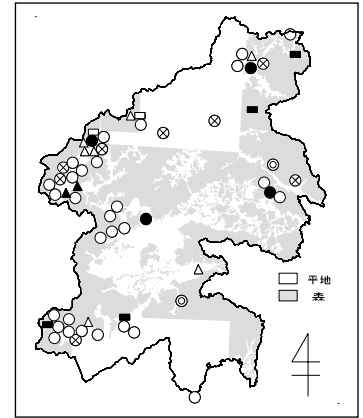
### 3. フィールド調査・考察

#### 3.1 茅葺き民家の保存・消滅実態

フィールド調査の結果、82戸あった茅葺き民家で茅葺き屋根を露出させて現存しているものが48戸であった。そのうち、屋根の状態が「良」のものが38戸、「悪」のものが10戸である。その他は「被覆」しているものが8戸、「一部被覆」しているものが2戸であった。つまり82中58戸の民家が現存し、24戸の茅葺き民家が消滅し

取り壊されたか建て替えられたことになる。

茅葺き民家は、「西部・志和」「西南部・黒瀬」「北部・豊栄」「東部・河内」の4つの地域に分布していることが現存民家の分布図(図1)から読み取れる。



#### 3.2 茅葺き民家の現状

現存民家58戸の内、屋根の状態が「良」の民家が38戸。残りの20戸の内10戸は、屋根の状態が「悪」の民家である。「被覆」の民家は8戸で、全て「母屋」として使用されている。「一部被覆」の2戸の民家は、「母屋」として使用されているが、今後屋根を葺き替えない限り「被覆」もしくは「消滅」となるのは時間の問題である。

屋根の状態が「悪」で「空き家」「その他」として使用されている6戸は、「消滅」となるのは時間の問題である。つまり、屋根の状態が「悪」で「母屋」として使用されている民家は、次に住む人がいなければ消滅の可能性が高い。「その他」とは「別荘」「趣味」として残っておりこのまま使用されるのであれば、消滅の可能性は低い。また、屋根の状態が「良」の中に「空き家」となっているものが2戸あり、新しい家主が現れない限り、メンテナンスされないまま消滅の途をたどる。

表 1 フィールド調査結果

		現状	屋根材料	屋根の状態	使用用途	件数	箱棟	寄棟	入母屋	切妻	敷地内建物がある民家		
○	タイプ1	現存	草	良	母屋	29	26	24	5	0	27		
	タイプ2				空き家	2	1	1	1	0	1		
	タイプ3				その他	7	4	4	3	1	3		
	タイプ4				母屋	4	2	2	2	0	4		
	タイプ5				空き家	4	0	2	2	0	0		
	タイプ6				その他	2	0	2	0	0	2		
	▲			タイプ7	トタン 瓦 ビニールシート	被覆	母屋	8	2	6	2	0	8
	△			タイプ8			空き家	0	0	0	0	0	0
	□			タイプ9			その他	0	0	0	0	0	0
	◎			タイプ10			母屋	2	0	0	2	0	2
	⊗			タイプ11			空き家	0	0	0	0	0	0
	△			タイプ12			その他	0	0	0	0	0	0
△	タイプ13	消滅			24	-	-	-	-	-			

#### 3.3 消滅が進んでいる地域

消滅が進んでいるのは「西部・志和」「西南部・黒瀬」

A Study on The Factor and Realities of Preservation and Disappearance of Thatched House in Higashi-Hiroshima City

BANDO Takashi

環境設計研究室

「北部・豊栄」である。中でも「北部・豊栄」は東広島市の北部で、雪などの影響で茅が傷みやすくこまめにメンテナンスをしないと、他の地域より消滅しやすい。今現在も「豊栄」「黒瀬」には、空き家となっている茅葺き民家が 2 戸づつあり、消滅する可能性がある。また、屋根材料が「被覆」の 10 戸の内 3 戸が「志和」にある。茅葺き民家が集中している地域でも茅葺き屋根の消滅は進んでいることがわかる。

4. ヒヤリング調査結果・考察

ヒヤリング調査は、現存している 48 戸と被覆している 10 戸を含めた 58 戸から、空き家となっている民家を除いた 52 戸を訪問し、その内 26 戸の民家にヒヤリングすることができた。ヒヤリング内容とその回答を、ヒヤリング内容と回答に記す。(表 2)

表 2 ヒヤリング内容と回答

	質問	回答	意見
共通	1 茅葺き屋根の良いところ?	夏す涼しく、冬暖かい 19/26(人) 落ち着く 1/26(人) 日本の文化である 2/26(人) 家の中が広い 1/26(人) 心にゆとり 1/26(人) 分からない 2/26(人)	・瓦は暑い
	2 悪いところは?	維持が大変 18/26(人) 台風に弱い 2/26(人) 隙間風が寒い 4/26 分からない 2/26(人)	・トタンにしたとしても火事が怖い
	3 屋根を葺いてもらっている職人はどれか?	志和堀 石井元春 14/26(戸) 北広島町 伊野文之助 1/26(人) 熊野町 沢木端吾 2/26(人) 大和町 清水愛之 1/26(人) 自分 1/26(人) 分からない 7/26(人)	・後継者を育ててほしい ・職人が減っているの心配
	4 1回の葺き替えの費用はどのくらいか?	約200万円(50年前)1/26(戸) 約400万円(30年前)4/26(戸) 約150~200万円(20年前)8/26(戸) 約1000万円(5年前)1/26(戸) 分からない12/26(戸)	・最近の茅は質が悪いのですぐに修理することになる ・少し修理するだけで40万円かかる
	5 棟様式に対して意識しているか?	意識している 10/26(人) 意識していない 9/26(人) 分からない 7/26(人)	・葺き替えする時足場を組める ・大工さんの影響で箱棟にしている ・ゆがんだら直す
茅葺き民家	6 今後屋根を被覆したいと考えているか?	考えている 5/26(人) 考えていない 21/26(人)	・ずっと残していきたい ・トタンは嫌い ・空き家になるから考えていない ・崩れるのを待つだけ
	7 なぜ被覆したいと考えているか?	職人がいない 2/5(人) 屋根の葺き替えにお金がかかる 3/5(人)	・地方から職人を呼ぶにも費用がかかる ・葺き替えが安くなっても被覆したいと思う
被覆民家	8 なぜ被覆したか?	材料が集まらない 1/2(人) ボロボロだった 1/2(人)	・職人を呼んだとしても十分な対応ができない
	9 被覆して良かったこと悪かったこと	屋根がきれいになった 1/2(人) 茅葺きを維持できなくて残念 1/2(人)	・被覆して茅葺きも良かったと思うことがある

4.1 屋根の葺き替え費用

今回ヒヤリングした民家で屋根全体(4面)を葺き替える時の費用は約 200 万円(50 年前)~約 1000 万円(5 年前)であった。ヒヤリング内容と回答から「お金がかかり、維持が大変」とあるが、屋根だけの費用に注目し、どれだけ一般の屋根と違うのか比べてみる。

某リフォーム会社で、築 20 年で 138.5 m<sup>2</sup>の古くなった瓦屋根を葺き替える費用が約 200 万円と言った工事事例がある。茅葺き屋根の大まかな工事費見積もりとして「屋

根坪数×7=工事費(万円)」と言うものがあり、同じ面積で計算すると、茅葺き屋根の葺き替えは約 300 万円かかるということになる。これから、屋根のメンテナンス費用は茅葺き屋根の方が同等もしくはそれ以上である事がわかる。しかし、屋根を被覆しようと考えている民家は少なく「維持費が高くて茅葺き屋根を残したい」と言う意見は多く、被覆をした民家の住民も「被覆して茅葺きも良かったと思うことがある」と言った意見も聞くことができた。

4.2 屋根葺き職人

屋根葺き職人として、志和堀の石井元春氏(14/26 戸)が、多くの茅葺き民家の屋根を葺いていて、「西部・志和」「西南部・黒瀬」の民家はほとんどこの人が葺き替えている。その他、熊野町の沢木端吾氏(2 戸)、北広島町の伊野文之助氏(1 戸)、三原市の清水愛之氏(1 戸)など広島県で有名な職人が名を並べている。

しかし屋根葺き職人も、高齢化などの理由から人数が少なくなってきた。茅葺き民家の住民も気にしており、「後継者を育ててほしい」「職人さんがいなくなると心配」と言った意見も聞くことができる。中には「職人がいないから被覆する」と言っている住民もいた。その場合「職人がいたら維持できるのか?」という問いかけには「いたとしても費用がかかるから分からない」とのことだった。これは、屋根を被覆した要因にもなっていて「地方から職人を呼ぶにも費用がかかる」「職人を呼んだとしても十分な対応ができない」からである。

5. 結論

茅葺き民家は、主に「西部・志和」「西南部・黒瀬」「北部・豊栄」「東部・河内」の 4 つの地域に分布しており、同時に「西部・志和」「西南部・黒瀬」「北部・豊栄」は消滅が進んでいる地域でもあることがわかった。

母屋として使用されている茅葺き民家は、主に「西部・志和」「西南部・黒瀬」に分布していた。その要因として、志和堀の石井元春氏が屋根葺き職人として活躍しているからである。

母屋で屋根の状態が「悪」になるまで放置している要因として、今現在住んでいる住民が亡くなった時などの際、その茅葺き民家に住む次の世代の住人がいないからである。同じ要因から空き家となっている民家もあり、消滅するのは時間の問題である。

注 1) 西中国茅葺き民家保存研究会の作成した平成 14 年(2002 年)9 月 1 日の時点での、茅葺き民家分布図(げいびグラフ第 91 号, p. 9)より確認した

参考文献: 1) 矢野文雄: げいびグラフ第 91 号, 青文社, 2002, 10  
2) 青原さとし, 西中国茅葺き民家保存研究会: 藝州茅葺き紀行, はる書房, 2008, 5